

東京外語会主催 文化講演会

『アメリカ大統領のことばを通訳する』

講師：鶴田知佳子（つるたちかこ）東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授（通訳翻訳研究）

日時：7月14日（土）午後2時—4時（続いて懇親会）

場所：東京外国語大学 本郷サテライト4階（講演）および3階（懇親会）



プロフィール：

上智大学外国語学部フランス語学科卒。コロンビア大学経営学大学院修了。MBA（経営学修士）取得。金融業界で10年の勤務経験の後に通訳者となり、目白大学助教授を経て現職。フランス語学科卒業、イタリア在住経験もあり、英語のほか、フランス語やイタリア語も話す。NHK「英語でしゃべらナイト」監修などのほか、著書には「よくわかる逐次通訳」（共著、東京外国語大学出版会）、「45分でわかる！オバマ流世界一のスピーチの創りかた」、「英語で伝えるオジサン的ビジネス表現」（共著、アルク）、「英米リーダーの英語」（共著、コスモピア）などがある。

アメリカで小学校高学年、高校時代をインドのアメリカンスクールで過ごしアメリカの大学院を出ていることで、小学校から大学院までの教育の半分はアメリカの教育を受けている。1986年から6年間イタリアに在住。イタリアから帰国してのち、NHK放送通訳者、会議通訳者となり、現在に至る。

講師よりのメッセージ

通訳者は言葉の意味を訳すことは当然として、訳語の選択や全体的な表現を通じて話者の知性や品格も正確に反映することが求められる。国家首脳は代表的な例で、たとえばオバマ前大統領の緻密な論理構造と情緒的なレトリックは聞き手を惹きつけるだけでなく、言葉を通してその類まれなる存在感を示していた。しかし、リーダーとしての知性や品格を必ずしも備えていない人物がリーダーになった場合、通訳者はどのように対応すればよいのか。意図的な差別的表現や明らかに矛盾をはらむ発言が繰り返される中、通訳者は話者に対していかに誠実な解釈をすればよいのか。トランプ大統領の誕生により、通訳者はこの新たな問題に直面している。本講演ではクリントン大統領時代から現在まで放送通訳者として米国大統領の通訳を行ってきた立場から、自身の通訳経験および教育者としての経験に基づき、通訳者の「解釈」のあるべき姿を考察する。